

水田たより 4月号

令和7年4月1日

JA みえきた

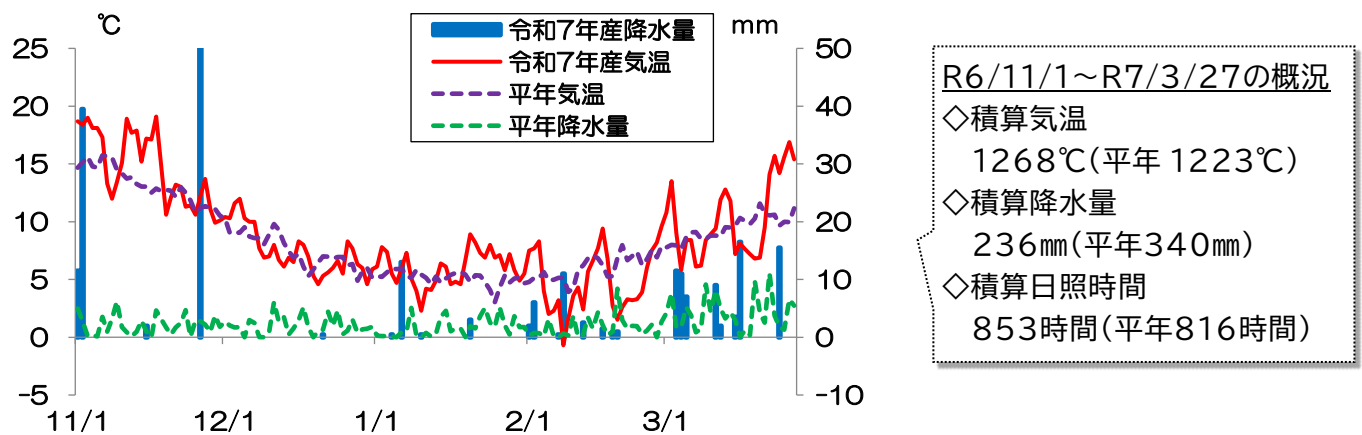
桑名地域農業改良普及センター

麦

気象状況と生育状況

2月は平年より気温が低く推移し、麦の生育は低調となりましたが、3月では平年より気温が高く推移したことで、平年並みの生育となっています。令和7年産の開花期が4月15日以降と予測されるため、早めに薬剤や農機具の準備を行いましょう。

<気象状況>

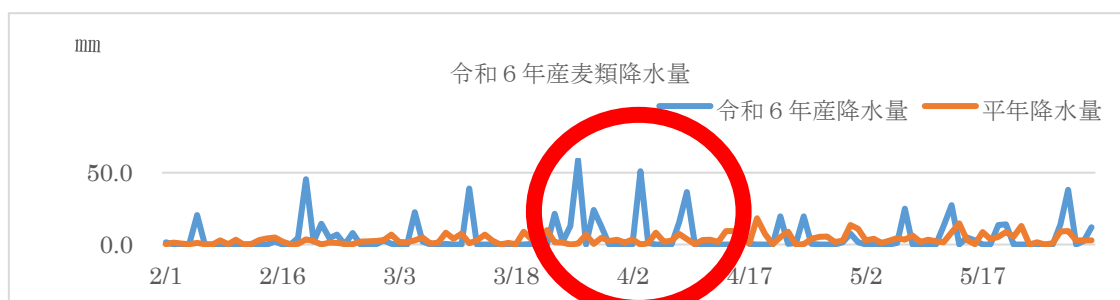


地域	品種	播種日	3カ年平均との比較 (3月下旬調査時点)			R7年 開花期 (予測)	R6年 開花期	R5年 開花期
			茎数	草丈	葉齢			
桑名・木曽岬	小麦「さとのそら」	11/17	やや多	低	遅	4/21	4/10	4/11
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/7	やや少	低	やや遅	4/19	4/7	4/6
	大麦「ファイバースノウ」	11/5	少	低	やや遅	4/14	4/10	4/9

麦

適期に赤かび病の防除を

管内における令和6年産麦類では、下記のグラフのように出穂期である4月上旬以降の降雨により、赤かび病の発生がみられました。赤かび病は開花期～乳熟期に降雨が多いと発生しやすく、特に高温状態で発生が助長されます。薬剤による防除は、1回目を開花始め～開花盛期（出穂期から7～10日後）、2回目を1回目の7～10日後に行いましょう。特に、1回目の時期を適期に行うことが2回目の防除効果を高く保つために必要となります。出穂後は、こまめに圃場を見回り、麦の開花状況を把握しましょう。2回以上散布する際は、必ず作用機構の異なる薬剤を選択しましょう！



水稻

雑草対策に向けて、代かきと水管理を丁寧に

① ほ場の均平をとる

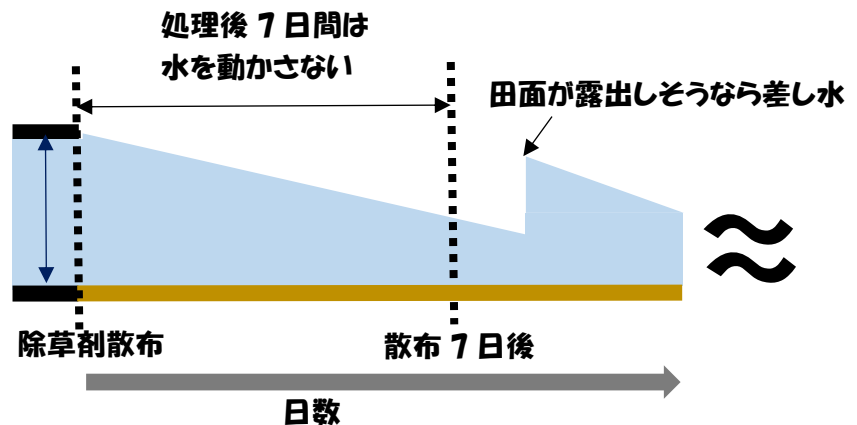
水稻における雑草対策では、代かきにより、凸凹のない均平な田面にすることが重要です。田面に凸凹が残っていると、凸の部分で田面が乾き、除草剤の効きが悪くなったり、凹の部分で苗が冠水し傷んでしまいます。特に、近年問題になっているヒレタゴボウは、露出した田面で発生しやすくなります。トラクターの作業速度は2～4km/hで、丁寧に代かき作業しましょう。

② 除草剤散布時・以降の水管理

1キロ粒剤や顆粒水和剤を散布する際は、田面が露出しないよう3～5cmに湛水します。ジャンボ剤の散布時はやや深めに水深5～6cmとします。剤形や散布方法によって、散布時や散布後に必要な水深が異なりますので、ラベルをよく読んでください。除草剤散布後、水持ちが悪く、田面が露出しそうな場合は、処理層を壊さないように静かに水を入れます（差し水）。

散布時の水深の目安

- ・1キロ粒剤や顆粒水和剤：3～5cm程度
- ・フロアフル剤：5cm程度
- ・ジャンボ剤：5～6cm程度
- ※ラベルをよく読んで散布



水稻

活動開始の時期に要注意！スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)対策

スクミリンゴガイ防除は、耕種の防除（水路からの侵入防止や浅水管理）、化学的防除（農薬散布）、物理的防除（秋期・冬期の耕うん）などを組み合わせて実施する必要があります。

スクミリンゴガイは0℃で20～25日、-3℃で3日、-6℃で24時間以内の低温条件で死亡します※。今冬は一時的に低温となる日があったものの、例年被害が発生しているほ場では土中で越冬している可能性が高いため対策しましょう！ ※大矢慎吾(1987) 日本応用動物昆虫学会誌 31: 206-212.

① 水路からの侵入防止

方 法 ・入水口や排水口にネットや金網（9mm目合い程度）を設置する

実施時期 ・**移植前に入水時から** 水稻5葉期（移植後3週間程度）まで

◀葉が小さく柔らかい間が食害を受けやすい

③ 移植後の浅水管理

方 法 ・水深を4cm以下に維持して活動や摂食を制限する（1cm以下ではより効果が高まる）

実施期間 ・**水温が17℃以上**◀水温が上がるとスクミリンゴガイが活動を開始する

◀水温が17℃以上になる時期の目安▶

○平年では桑名地域は4月17日から、いなべ地域は4月22日から

○令和6年では桑名地域は4月6日から、いなべ地域は4月12日から

・**水稻5葉期（移植後3週間程度）まで**

④ 農薬散布

方 法 ・上記の除草剤散布と同様に、散布後3～4日間以上は水深3～5cmを保ち、散布後7日間は落水やかけ流しは控える

・発生状況に合わせて、全面への均一な散布や局所的な散布（深水部分や額縁）をする

実施時期 ・②と同様。

過去の水田たよりは桑名地域農業改良普及センターのホームページでご確認いただけます。「桑名普及」でご検索ください。



桑名普及

検索